

東奥日報

2022年(令和4年)6月28日(火曜日) (14)

類家社長(手前左)ら審査員を前に堂々と発表する学生たち



UDや操作性発想競う

ハ 戸

八戸工業大学感性デザイン学科はこのほど、食品工場清掃業務や電解水生成装置販売などを手がける八戸市のアールテック(類家伸一社長)とのデザイン協働プロジェクトの一環で、同装置の筐体デザイン発表会を同大で開いた。学生約20人が8グループに分かれてプレゼンテーションを行い、アイデアを競った。同社は来春をめどに、殺菌用の酸性電解水と洗浄用のアルカリ性電解水の両方を生成できる食品

アールテック(八戸)開発の装置

産業向け環境配慮型装置(特許出願中)の開発を進めている。プロジェクトは同装置のデザインやネーミングに学生のアイデアを生かすのが目的で、学生たちは4月からの授業で同社製品のコンセプトに理解を深めたほか、装置の設計・製作を担当するサンライズエンジニアリング(五戸町)の赤坂太樹社長からデザイン設計の注意点を学んだ。発表会で学生たちは、装置のミニ模型を示しながら障害者に配慮したユニバーサルデザイン(U

八工大生がデザイン発表会

D)の工夫や、操作性と安全性を考慮したデザイン、親しみやすい商品名などを提案。類家社長や赤坂社長らの審査の結果、同学科2年の地代所美優さん、小泉美綺さん、滝澤知里さんのグループが最優秀賞に選ばれた。3人は会社のイメージカラーの青と白を取り入れ、水玉模様をあしらってかわいらしさとクールな印象を表現。さらにオリジナルキャラクターも考案し、類家社長から「面白い」と評価された。3人は受賞を喜びながら「自分たちに直接関わりのない装置なので、悩みながらデザインした」と苦労を語った。(千葉真由美)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」